

あるまりの一生

小川未明

青空文庫

フットボールは、あまり坊ちゃんや、お嬢さんたちが、乱暴に取り扱いなさるので、弱りきつていました。どうせ、踏んだり、蹴つたりされるものではありましたけれども、すこしは、自分の身になつて考えてみてもいいと思つたのであります。

しかし、ボールが思うようなことは、子供らに考えられるはずがありませんでした。彼らは、きやつ、きやつといつて、思うぞんぶんにまりを踏んだり、蹴つたりして遊んでいました。まりは、石塊の上をころげたり、土の上を走つたりしました。そして、体じゆうに無数の傷ができていきました。

どうかして、子供らの手から、のがれたいものだと思いましたけれども、それは、かなわない望みでありました。夜になると、体じゆうが痛んで、どうすることもできませんでした。まれに雨の降る日だけは、楽々とされたものの、そのかわり、すこし雨が晴れると、水たまりの中へ投げ込まれたり、また、体じゆうを泥で汚されてしまうのでした。雨の日が長くつづけば、つづくほど、その後では、いつそうみんなから、手ひどく取り扱われなければならぬないので、まりにとつては、雨の降る日さえが、その後のことを考えると、あまりうれしいものではなかつたのです。

あるとき、フットボールは、みんなから、残酷なめにあわされるので、ほとんどいたまらなくなりました。そして、いつも、いつも、こんなひどいめにあわされるなら、革が破れて、はやく、役にたたなくなつてしまいたいとまで思いました。

こんなことを思つていましたとき、彼は、力ませに蹴飛ばされました。そして、やぶの中へ飛び込んでしまいました。まりは、しげつた木枝の蔭に隠れてしまつたのです。

「まりが見つからないよ。」

「どこへいつたろう？」

子供たちは、おおぜいでやぶの中へはいつてきて、まりを探しました。しかし、だれも、ボールがちよつとした、木枝の蔭に隠れていようとは、気づかなかつたのであります。

「(こ)こんどこではない。ほかのところかもしれないよ。」

子供たちは、ほかの方面へいつて探しはじめました。そして、見つからないので、みんなはがつかりとしてしまつて、いつしか、どこへかいつてしまいました。

あとに、まりは、ひとり残されていました。しかし、また、子供たちがやつてくるにちがないない。そして、見つかつたら、いつそくさんに投げたり、蹴られたりすることだろうと思うと、まりは、ため息をせずにいられませんでした。

フットボールが、木枝の蔭で、小さくなつてゐるのを、空の上で、雲が、じつと見ていました。なぜなら、雲は、まりが子供らから、いじめられるのを、かわいそうに思つていたからであります。

雲は、だれにも気づかれないよう、そつと空から下へ降りてきました。

「フットボールさん、お気の毒です。私は、なんでもよく知っています。あなたほど、やさしい正しい方はありません。それなのに、毎日、ひどいめにおあいなれされています。幸い、だれも、いまは気づきませんから、この間に、私といつしょに空へおいでなさい。そうすれば、もう、みんなの手がとどかないから安心です。そうなさい。」
下を見ていた白い雲でありましたから、なつかしそうに、

「ごしんせつにいつてくださって、ありがとうございます。私みたいなものが、あの美しい空へ いそら いって、すんで くも いるところがありましょうか？」といつて、たずねました。

「それには、いい考え方があることです。はやくなさらないとダメですかから……。」といつて、
雲くもは、まりを急せきたてました。

フットボールは、雲の言葉に従いました。そして、雲に乗つて、空へ、高く、高く、昇つてしまつたのであります。

「まりさん、私は、夜になると、こういうように月を乗せて、大空を歩くのです。しかし月は、夜でなければ、やつてきません。あなたは昼間は、月のかわりに、ここからじつと下界を見物していなされたがいいと思ひます。」と、雲はいいました。

フットボールは、白い月のように、円い顔を雲の間から出して、下をながめていました。だれも、自分をまりだと思うものはありませんでした。

「あそこに、昼のお月さまが出でているよ。」といつて、子供たちは、あおぎながらいるのを、まりは聞いたのであります。

フットボールが、見えなくなつてしまつてから、子供たちは、ほんとうにさびしそうでした。広場へ集まつてきて、今までのようく、きやつ、きやつといって、遊ぶこともなくなりました。

「あのフットボールは、どこへいつたろうね。」と、一人がいいますと、「いいまりだつたね。」と、ほかの一人が、なくなつたまりをほめました。「あんまり、ひどく蹴つたから、いけないんだね。」と、なかには、後悔したものもあ

りました。

子供たちのことを、空で聞いていたまりは、かつて、自分のことなど、口にも出さなかつたのに、いまはこんなに自分のことを子供たちが思つてゐるかと思うと、うれしいような、悲しいような気持ちがしたのであります。そして、それほどまでに、自分を愛してくれるなら、たとえ自分は、どんなにつらいめをみても、子供たちを、喜ばしてやりたいというような考え方になりました。

まつたく、まりは、いまは雲の上にいて安全でありましたけれど、毎日、毎日、仕事をなく、運動もせず、単調に倦いていました。そして、だんだん地の上が恋しくなりはじめたのでありました。

まりは、地上に帰ろうかと考えました。そのとき、風は、彼にささやいたのであります。

「そんな気を起こすものではない。もしおまえさんが帰つたら、もう二度とここにはこられないのであります。そして、今までよりか、もつといじめられるだろう……。」と、風はいつたのであります。

雲は、また、まりに向かつて、

「もう、あなたは苦しいことを忘れたのですか。ここに、こうしていたら、どんなに安心であるかもしれない。あの子供たちも、じきにあなたのことなどは忘れてします。」といいました。

まりは、子供たちといつしょになつていた時分が、やはり恋しかつたのです。そして、ひとりぼっちとなり、やがて、みんなから忘れられてしまうと考へると、もうじつとしているわけにはいきませんでした。

「雲さん、長い間、どうもお世話になりますて、お礼の申しあげようもありません。私は、下界へゆきます。そして、坊ちゃんや、お嬢さんたちのお仲間入りをいたします。私は、もう、さびしくて、さびしくてかないません……。」と、まりはいいました。

雲は、このことを聞くと、また、まりの心持ちに同情をしました。

「それほど、あなたが帰りたいなら、つれていつてあげましょう。」と、雲はいました。ある夜、雲は、まりを乗せて下界へ降りてきました。そして、いつかまりの隠れていたやぶの中へ、そつと降ろしてくれました。

「まりさん、お達者にお暮らしなさい。さようなら……。」と、雲は、名残惜しげに別れを告げました。

「ありがとうございました。」と、まりは、お礼をいいました。

やがて、夜が明け放れると、やぶの中へ朝日がさし込みました。小鳥は木の頂で鳴きました。そして、ぼけの花が、真紅な唇でまりを接吻してくれました。

「まりさん、どこへ今までいつていなさいました？」みんなが、毎日、あなたを探していましたよ。」と、ぼけは、なつかしげにまりをながめていいました。

まりは、この地上のものを美しく、うれしく思いました。なぜ、自分は、この下界を捨てて、空の上などへ、すこしの間なりとゆく気になつたろう。もう、これからは、不平をいわずに、みんなといつしょに暮らすことにしようと思いました。

子供たちは、どうしてもフットボールのことを思いきれませんでした。そして、またやぶの中へ探しにきました。彼らは、思いがけなくまりを見つけたのであります。

「あつた！ あつた！ まりが見つかったよ。」

「おうい、フットボールが見つかった！」

「みんな、早くおいでよ。」

その日から、広場で、前のようにフットボールがはじめました。子供たちは、その当と座は気をつけてまりを大事にしました。

しかし、いつのまにか、また乱暴にまりを取り扱つたのであります。なんとされてもまりは、だまつていました。

こうしているうちに、まりは、もう年をとつてしましました。はね返る元気もなくなれば、不平をいつたり、逃れようとする勇気もなくなつてしましました。子供たちのするままになつて、終日外へほうり出されているようなこともあります。

空の雲は、まりが疲れて、広野にころがつているのを見ました。雲は、あわれなまりを、きの毒に思つたのであります。もし、二度と空へくるような気があるなら、つれてきてやろうと思つて、雲は、だれも、人のいないときを見はからつて、空から降りてきました。「もし、もし、まりさん。」と、雲は呼びかけました。しかし、耳も遠くなつて、目のかすんだまりは、せつかくの雲の呼び声にも気づきませんでした。雲は、哀しそうに去つてゆきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 4」講談社

1977（昭和52）年2月10日第1刷発行

1977（昭和52）年C第2刷発行

※表題は底本では、「あまりの一生『いつしよう』」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：富田倫生

2012年1月21日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆様です。

あるまりの一生

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>